

どうぶつこうえんニュース

 **千葉市動物公園**
Chiba Zoological Park

第6号



ヒラメの眼の散歩

佐藤 魚水

水産学者



近年、栽培漁業という言葉が、紙・誌上やテレビの画面に、頻繁に登場するようになった。その中身は“作って、育てて、獲る漁業”で、人工的に魚の種苗を作って、それを海や河川に放流し、育ててから漁獲しようという漁業である。

“作って”というのは、人工的に種苗を作ること、どんな魚でも作ることができるかという、残念ながら一部の魚に限られてしまう。しかし、限られた魚とはいえ着実に人工の種苗が放流されて、再生産に加わっていることは否定できない。

魚の種苗作りをしていると、卵からふ化して成長して段階を、つぶさに観察することができる。それは、魚の種苗作りをしている者だけに許された、生命の誕生という神秘の世界を覗きみる特権であるように思われる。

魚の種苗作りの中で、ヒラメはある時期に変身をする珍しい生態の持主である。華麗なる変身といっても過言ではない。

ヒラメの卵は、およそ二日間であふ化する。誕生した仔魚は、大きさ2.5ミリばかりで、目を近づけて、じっと見ないと見分けがつかないくらい小さな生き物である。顕微鏡で拡大すると、どきどきさせられる場面に出くわす。それは、眼が体の左右に1こずつあるからである。もっとも、こんな思いをするのは、一部の人のみで、それはそれは大変な驚異として受けとられ、顕微鏡から目を離しても心臓の鼓動が高鳴って、興奮覚めやらない姿に驚かされる。

誕生からおおよそ25日くらいたって、大きさが13ミリぜんごになると、頭のとっぺんを峠になぞらえれば、その峠へ向かって右の眼が散歩にでかける。目的地は左の眼の傍である。数日にわたって、牛歩のようなゆっくりとした散歩ではあるが、そこには華麗なる変身の兆しさえみえる。まだ、水中をひらひらと舞うように、立ったままの姿である。しかし、華麗である舞姿はいつまでも続くものではなく、散歩にでかけた右の眼が、恋しい左の眼の傍に到着する頃には、すっかりヒラメとしての変身の通過儀礼は終焉を迎えることになる。

右の眼が散歩に出かけてから数日、誕生からおおよそ30日目にして二つの眼が、体の左側に収まり、立っていた体は右へ倒れて、中層遊泳の短い生活に別れを告げるのである。

これからが、皆さんの抱くヒラメという、あの偏平となった縁の姿となって栽培漁業を支えていく魚となるのである。

目次

表紙・ルリコンゴウインコ… 1

どうぶつと私(3)…………… 2

グラビア
タンチョウ…………… 3

特別展
「ヒツジのおくりもの」…… 4

第3回サマースクール…………… 5

飼育レポート
モウコノウマの繁殖…………… 6

動物公園の動物③…………… 7
動物公園の施設③…………… 7

動物公園日誌から…………… 8

飼育よもやま話…………… 10

健康管理センターから…………… 11
動物図書室…………… 11

昭和62年度(後期)行事予定…………… 12
動物公園案内…………… 12

表紙の動物説明

●ルリコンゴウインコ

コンゴウインコのなかまは、色がきれいなので動物園でよく飼われています。前後2本ずつ分れた足の指と、くちばしを使って木の枝を動かすことができます。

5種のコンゴウインコが、子ども動物園に展示してあります。ルリコンゴウインコは、南アメリカの森林にすむ額は黄緑色、背中と翼は青色、腹は黄色の美しい鳥で、全長80～90cmもあります。

動物飼育数

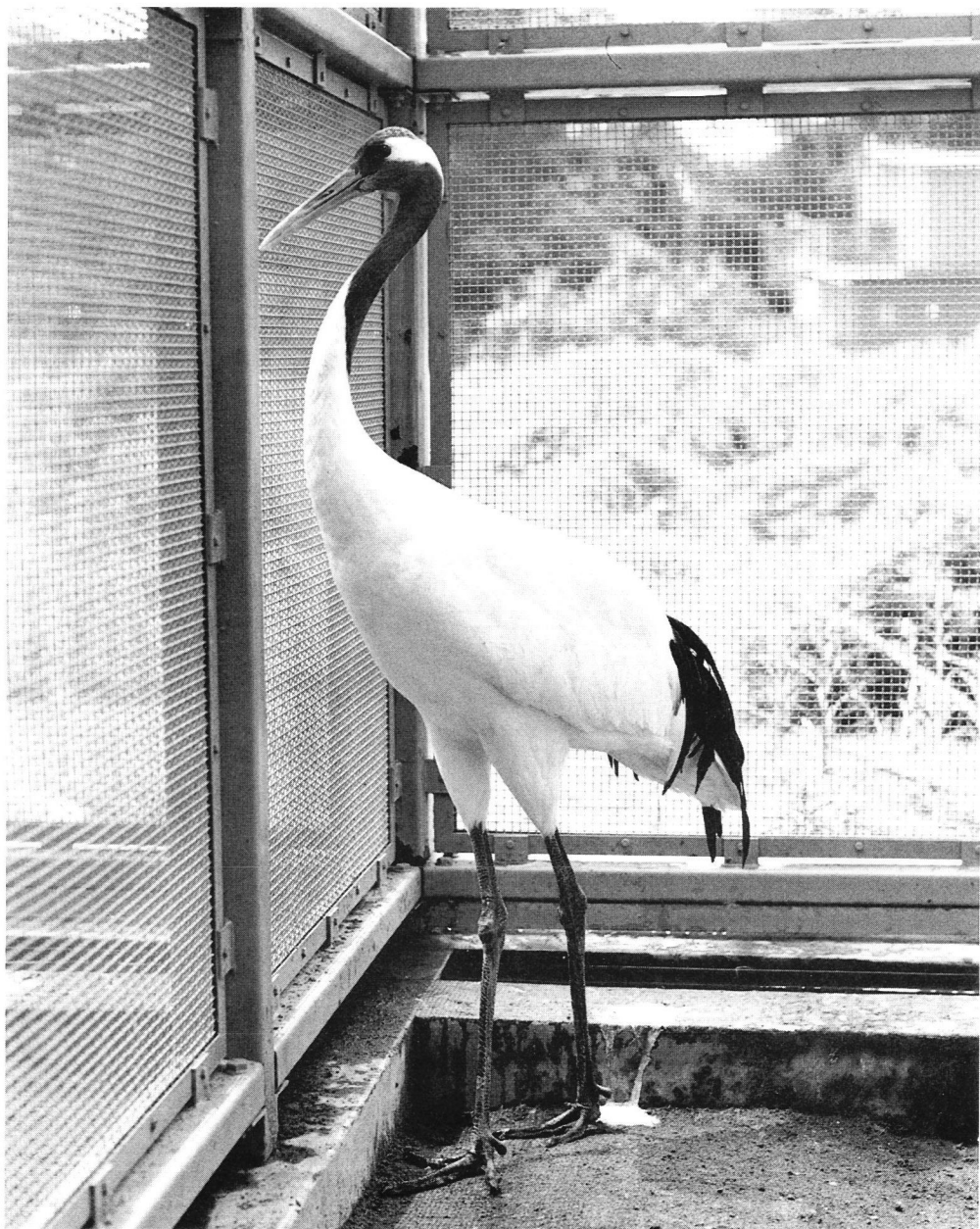
(昭和62年8月31日現在)

哺乳類	73種	379点
鳥類	57種	245点
ハ虫類	5種	22点
両生類	2種	4点
魚類	1種	2点
計	138種	652点

グラビア

タンチョウ

鳥綱 ツル目 ツル科



タンチョウが贈られてきました。

昭和62年5月29日天津市より、友好都市締結一周を記念して、タンチョウ一羽が贈られてきました。この御礼として、ジャガー一羽を贈りました。タンチョウは、中国東北部と日本の北海道で繁殖するのみで、絶滅に瀕した貴重な種として、厳重に保護されています。まだ若いので、繁殖にはしばらく時間がかかりますが、早くかわいい雛の姿が見たいものです。

(園長 宗近 功)

特別展「ヒツジのおくりもの」

ヒツジってこんな動物です

●分類

ホ乳類の偶蹄目のヤギ亜科のなかまで、ヒツジ属には6種の野生ヒツジと1種の家畜ヒツジがいます。

●家畜ヒツジの起源

家畜ヒツジは、イヌに次いで歴史の古い家畜で、今から約8000年前から飼われています。

家畜ヒツジの祖先は、ムフロン（動物公園の家畜の原種ゾーンにいます）やアルガリという野生ヒツジと考えられています。

ムフロンは地中海の島、アルガリは、中央アジアに今でもすんでいます。



ムフロン

●家畜ヒツジの種類

家畜ヒツジには、約1000種類が知られています。よく知られたものに、コリデール種、サフォーク種、メリノー種などがあります。体の大きさ、角のあるなしは品種によってちがひ、また、体の色も白色、茶色、黒色、まだらのものなどさまざまです。

動物公園では白いコリデール種、顔の黒いサフォーク種、4本の角をもつジェイコブ種（ヨツツノヒツジ）を飼っています。

●家畜ヒツジの分布

家畜ヒツジは、東南アジアを除いて世界中で、現在12億頭のヒツジが飼われています。一番多く飼われているのはソ連、オーストラリアです。次に中国、ニュージーランドです。

●ヒツジの利用

ヒツジの毛は、加工のしかたにより、毛糸、フェルト（織らない布）、フトンなどになります。毛糸からセーターや洋服、毛布やジュウタンをつくります。毛皮は古くは紙のかわりに、今では防寒具、敷物に使われています。ヒツジの肉はやわらかく、カロリーが高く、日本ではジンギスカン料理などに使います。ヒツジのミルクは飲むほか、チーズにも利用されます。

●日本のヒツジ

日本に初めてヒツジが来たのは約1400年前です。それ以後時々外国から入ってきましたが、本格的に飼いはじめたのは明治時代になってからです。

軍服などに使う羊毛の生産のため、ヒツジが多く飼われ、昭和32年には100万頭も飼われました。そ

の後安い羊毛が輸入され、よい化学繊維ができたため急速に減少しました。現在では3万頭しか飼われていません。

すばらしいヒツジの毛

●ヒツジの毛

1頭のヒツジの体には、5千万本もの毛がはえています。メリノー種のヒツジには、一平方センチの中に1万本ほどの毛がはえています。

ヒツジの毛（ウール）の特徴をみてみましょう。

- ①スプリングのようにちぢむ
- ②水をはじき、湿気をすう
- ③ちぢんで、かたくなる
- ④かたくずれしにくい
- ⑤染めやすく、色おちしない

セーターのできるまで

①毛刈り

ヒツジの毛は、年に1回刈りとり、日本ではサクラの花のさくころ刈ります。昔は、毛刈りバサミで、現在はヒツジ用の電気バリカンで刈ります。1頭で2～4kgの毛がとれます。セーターなら3～6枚、スーツなら1～2着できます。

- ②毛をあらう、そめる
- ③毛をとかす
- ④毛をつむぐ

スピンドルや紡毛機という道具を使って、つむいで毛糸にします。

⑤毛糸をあむ、おる

現在では毛刈り以外はすべて機械がおこなっています。



毛刈り



毛をつむぐ

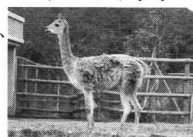
ウールせんい

ヒツジに似た毛をもつ動物からもウールに似た繊維をつくることができます。

ラクダの仲間のフタコブラクダ、ビクーナ、グアナコ（この2種は野生種）、ラマ、アルパカ（この2種は家畜）、家畜ヤギのカシミアヤギ、アンゴラヤギ、カイウサギのアンゴラウサギ、などの毛が利用されています。ヒツジと比べて、大量にとれないため、ほとんどが高価です。



フタコブラクダ



ビクーナ

その他、トナカイ、ミンク、クロテン、ネコのヒマラヤン、イヌのアフガンハウンドの毛も利用されます。

動物たちとの1日



といふてゐた。いつもし、く係人かさん
 といふてゐた。たいへんなと聞いてしま
 てもなれたらう。いきたよといひまし
 た。エサのにんしんやさつまいもを切。たり
 した。草をはくたりもした。とても
 楽しか。たです。来年もサマー・ス
 クールに参
 加したいと思ひます。し、く係のみなさん
 れからも　かんばす、て下さい



みんな「楽しかった」、「来年もぜひ参加したい」という感想を残して帰っていきました。飼育係の皆さんの苦労もむくわれたようです。

モウコノウマの繁殖

家畜の原種ゾーンで飼育しているモウコノウマに、今年1月24日の夜、子供が産まれました。モウコノウマの出産は、日本では初めてのことです。産まれた子供はオスで元気に母乳を飲み、母親も良く面倒をみていましたので、このまま順調に育てくれると思いました。

ところが、1月27日の朝、獣舎へ行ってみると、子供が立てなくなっていました。母親と分けて診察してみると後足の関節が腫れており、そこが痛むため立ちあがれない様子でした。ウマは立つことができないと母親から乳を飲めないため、人工哺育をすることにしました。足は、検査の結果、細菌性の関節炎とわかり治療のために毎日関節の洗浄をすることになりました。

人工哺育の哺乳量や回数は、家畜のウマの例を参考にし、与える人工乳も競争馬用のものを使用しました。ウマの乳成分は、ウシなどの草食獣にくらべ、脂肪やタンパク質が薄いからです。当初、1日の哺乳回数は

乳成分比較

(%)

	脂 肪	タンパク質	乳 糖	灰 分	全固型分
ウ マ	1.6	2.7	6.1	0.51	11.0
ホルスタイン	3.5	3.1	4.9	0.70	12.2

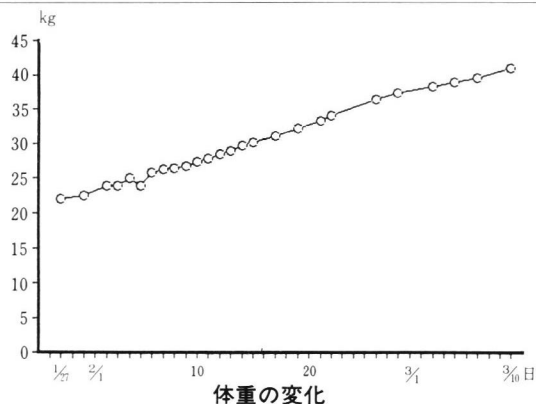
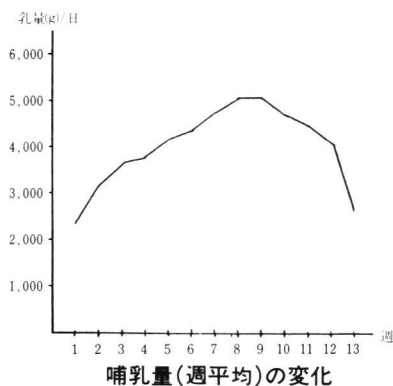
8回とし、7時、9時、11時、13時、15時、17時、19時、21時として、1回当り360ccを与えることにしました。

最初のうちは飲む量も360ccをきることが多かったのですが、徐々に飲む量も増えてきました。しかし、足の関節が悪いのですから、体重があまり急に増えると関節に負担がかかる可能性があるため、給与量はひかえめを原則として、毎日手さぐりの状態で哺乳を続けましたが幸いなことに体重は、少しずつ増加していき

ました。

関節の洗浄は、2月2日より開始し2月17日まで続けました。これはウマを麻酔でねむらせ、関節に太い注射針をさして、生理食塩水を注入し、再びぬくこ

とをくりかえすもので、獣医さんにとっても、ウマにとっても大変な治療でした。そのかいがあって、最初かなり汚れていた関節液もだんだんきれいになってい



き、ついに細菌の存在も認められなくなりました。

治療が一応、終了しましたのでリハビリを始めることにしました。普通、ウマの子は、産まれるとすぐに立ちあがり、母親のあとをついて歩きます。このことによりウマにとって大切な足がきたえられていくのです。



しかし、今回産まれた子は20日間もの間、ほとんど運動していませんので、足の筋肉の発達が遅れています。そこで毎日2回ずつ外へ出していっしょに遊んでやることにしました。

最初は自由に遊ばせておいてだんだんいっしょに歩いてやったり、顔にロープでできた頭絡をつけて引いて運動させることにしました。リハビリをくりかえした結果、悪かった後足をかばいながらも走れるようになりました。

この間、哺乳量も増えていき、乾草等も食べるようになりました。哺乳回数も1日、6回が5回、4回、3回、2回と徐々に減らしていき、4月25日に離乳しました。

現在では、家畜の原種ゾーンのブリーディング舎で飼っています。足はやはり完全には良くなりず、少し歩きづらそうですが、元気に育っています。これからも足が悪化せず、健康で成長してくれることを願っています。

(浅野 洋之)

動物公園の動物 ③

～パタスザル～

アフリカの草原や半砂漠地帯といった開けた地域に住むパタスザルは、ちょっと見るとサルというよりはイヌのような印象をうけるかもしれません。それというのも、ふだんから四つ足で生活し、敵におそわれた時も、ふつうのサルとはちがって、木のない草原を走って逃げるため、体の感じが四つ足動物のようになっているからです。全力疾走すると、時速55kmで走ることができるといわれます。

走るために手足の指は短くなっています。しかし、そんな指でも器用にもものをつかんだり、木に登ることはできます。ただ、このような体形とほとんど木のない生活環境から、パタスザルはめったに木に登ることはありません。1頭のオスに率いられたメスと子供の30頭くらいの群れが、サバンナを行進している様子を想像してみてください。

オスは頭胴長60～70cm、体重25kgくらいの大きなサルです。メスはその半分くらいの大きさしかありません。オスはくちひげを生やしていて、まるで軍隊の將軍のようです。しかしオスだけではありません。メスにも、なんと子供にもひげがあるのです。大人のひげ



は白いのですが、子供のひげは黒く、このせいで子供の顔はなんとなくユーモラスな感じがします。

野生では草や果物、種子、昆虫などを食べ、卵やトカゲ、小鳥を取ることもあるといわれます。動物公園ではキャベツ・サツマイモなどの野菜や、バナナ・リンゴ・オレンジといった果物、ゆで卵、サル用の固型飼料をあげています。

サル比較舎にいるオスの「ドン」とメスの「タッパ」は相性が良く、昨年・今年と2年連続して子供が生まれています。子供たちは今や、やんちゃざかり。おとなしい両親の間を跳ねまわっています。最初はしずかだったパタスザルの部屋もにぎやかになり、これからもこのような平和な光景が長く続くことが予想されます。
(川原田 史治)

動物公園の施設 ③

～家畜の原種ゾーン～

みなさんがよく知っている家畜の祖先をご存じでしょうか。家畜とは、人間が飼いならし、改良した動物で、私たちの生活ときってもきりはなせない動物です。

今日の家畜の祖先たちは、今では忘れられようとしています。その家畜の祖先にスポットをあて、家畜のルーツに興味、関心を持っていただくために、現存する家畜の祖先たちを集めたのが家畜の原種ゾーンです。すでに絶滅したものや入手のむづかしい動物に関しては、近似種を展示しております。

このゾーンには、次のような動物が展示されています。ヨーロッパバイソンは、自然界ではすでに絶滅してしまいましたが、動物園などで飼育されているものを繁殖させふやし、自然界に放し絶滅をまぬがれました。

地球上で現存するただ一種の野生の馬であるモウコノウマは、現在はモンゴル地方にはんの少ししか生息していません。世界の動物園では、このような貴重な動物の血統登録を行ない繁殖に力を入れています。

ムフロンは、家畜ヒツジのもとになった野生のヒツジであり、トナカイはサンタクロースのソリを引いているシカで、ヨーロッパからアメリカまでのツンドラに生息する野生のトナカイを飼いならしたものです。



スイギュウは、野生種が少ないため家畜種を展示しています。東南アジアなどで農耕に使われており、暑い日はよく池に入ります。

ヤケイ舎には、現在のニワトリの祖先になったセキショクヤケイなどが展示されています。ヤケイは、ニワトリのように年中は卵を産みません。

ラクダは、「砂漠の船」といわれ、砂漠でくらす人々にはだいたい家畜です。ヒトコブラクダもいますが、ここには2つのコブをもっているフタコブラクダがいます。同じラクダのなかまのビクーナは、その毛がとても高級な織物になります。

他にチベット地方などで運搬などに使われているウシのなかまのヤク、ヤセイシチメンチョウ、マガモ、ハイイロガンがいます。

開園してから現在までバイソン、ラクダ、ムフロン、ヤク、モウコノウマ、ヤケイ…などが繁殖しています。
(石井 信一)

動物公園日誌から

昭和62年 1 月 1 日～昭和62年 7 月 31 日

- 1 月 2 日 ショウガラゴ出産 (2 頭)
- 〃 フンボルトペンギン抱卵 (12月末に産卵)
- 1 月 4 日 新春特別展「ウサギ」開催 (～2 月 1 日)



展 示 風 景

- 1 月 5 日 レッサーパンダ採尿 (妊娠鑑定のため)
- 1 月 6 日 ペルーイワドリ営巢行動見られる。
- 1 月 10 日 手作り年賀状コンクール開催 (～31 日)
- 1 月 12 日 飼育研究会「動水協全国大会に参加して」
- 1 月 22 日 ヨーロッパバイソンの仔角 3cm 程に伸びる
- 1 月 25 日 モウコノウマ出産
- 1 月 27 日 ヨツヅノヒツジ出産
- 2 月 2 日 モウコノウマ (仔) 体重測定 (24kg)
- 2 月 3 日 マントヒヒ出産
- 2 月 7 日 フンボルトペンギン自然ふ化
- 2 月 8 日 ビグミーマーモセット (仔) 死亡
- 2 月 9 日 フンボルトペンギン自然ふ化
- 〃 飼育研究会「動水協ブロック会議に参加して」
- 2 月 11 日 トナカイ (オス) 袋角約 3 cm に伸びる
- 2 月 14 日 飼育技術者認定試験 (飼育職員 12 名受検)
- 2 月 15 日 園内バードウォッチング (参加者 58 名)



バードウォッチング

- 2 月 18 日 ハイイロコクジャク自然ふ化 (2 羽)

- 2 月 22 日 ペルーイワドリ産卵
- 2 月 23 日 ショウガラゴ親子の展示を開始する
- 〃 ペルーイワドリ産卵 (2 卵目)
- 2 月 25 日 フンボルトペンギンのヒナ死亡
- 2 月 27 日 ウマに破傷風ワクチン接種
- 3 月 4 日 マレーシアのネガラ動物園にニホンザル (1 頭) 寄贈
- 〃 オグロプレーリードッグ出産 (3 頭)
- 3 月 5 日 ホシハジロ換羽
- 〃 モウコノウマの仔体重測定 (39.2kg)
- 3 月 6 日 駐日ウガンダ大使来園
- 3 月 9 日 飼育研究会「レッサーパンダの尿中性ホルモンについて」
- 3 月 11 日 ノウサギ (メス) 死亡
- 3 月 14 日 カンムリシギダチョウ産卵開始
- 〃 動物紙工作展開催 (～4 月 28 日)
- 3 月 18 日 マレーシアのネガラ動物園よりシルバールトン受贈
- 3 月 19 日 ワラ (12トン) 入荷
- 3 月 20 日 飼育実習生 (秋田農業短大生) 受け入れ (～4 月 7 日)
- 3 月 22 日 ペルーイワドリふ化 (23 日もふ化)
- 3 月 23 日 フタコブラクダ換毛
- 3 月 26 日 コアホウドリ保護 (千葉県自然保護課より)
- 3 月 29 日 動物紙工作教室開催 (講師 大蔵泰平)
- 3 月 30 日 スリランカ国立動物園にニホンザル (3 頭) を寄贈
- 3 月 31 日 ムフロン出産
- 4 月 1 日 動物公園新規職員採用 (9 名)
- 4 月 3 日 船橋市職員 (1 名) 飼育実習 (～9 日)
- 4 月 5 日 スイギュウ今年はじめて池に入る
- 4 月 6 日 オウギアイサ産卵開始
- 4 月 8 日 ムフロン出産
- 4 月 9 日 ダマワラビー死亡
- 4 月 12 日 保護のコアホウドリ死亡
- 4 月 13 日 ハイイロトビ緊急保護 (通産省より)
- 4 月 16 日 オセロット出産 (2 頭)
- 4 月 20 日 ニューカッスル予防注射を行う
- 4 月 21 日 千葉市新規採用職員の職場体験研修実施



開園 2 周年記念ステッカー

- ～24日)
- 4月26日 モウコノウマ離乳(生後3ヶ月)
- 4月29日 開園2周年記念講演及び記念シールの配布
- 5月1日 ヒツジの毛刈り開始
- 5月4日 ペルーイワドリのヒナ巣立つ
- 5月5日 ウマ(ドサンコ)出産
- 5月6日 天津市ヘジャガー寄贈のため発送
- 5月7日 ジャガー寄贈のため公園緑地部長、飼育係長、天津市を訪問(～12日)
- 〃 フンボルトペンギンのヒナ死亡
- 5月18日 飼育研究会「モルモットの個体管理」
- 〃 オウギアイサ自然ふ化開始
- 5月19日 特別展「ヒツジのおくりもの」開催(～6月14日)
- 5月20日 オウギアイサのヒナ巣箱より外に出る(7羽)
- 5月24日 博物館学実習(千葉大学生)
- 5月25日 ムフロンの子に個体識別用耳標つける
- 5月26日 天津動物園よりタンチョウ1つがい受贈
- 〃 天津動物園関係者3名来園(～6月3日)
- 5月29日 タンチョウの贈呈式
- 5月31日 ヒツジの毛刈りの実演と紡毛教室



ヒツジの毛刈りと紡毛教室

- 6月1日 セキショクヤケイ人工ふ化(2羽)
- 6月3日 オウギアイサのヒナ7羽断翼
- 6月5日 ヒツジの毛刈り全頭終了
- 6月7日 動物を計る会開催(千葉市計量検査所と共催)



開催風景

- 6月8日 飼育研究会「中国の動物園」
- 〃 保護したハシボソミズナギドリ放鳥
- 6月9日 セイロンヤケイ換羽
- 6月12日 トナカイ換毛終了
- 6月13日 フタコブラクダ換毛終了
- 〃 カンムリシギダチョウ換毛終了
- 6月15日 飼育職員2名上野動物園にゾウの飼育実習(～7月14日)
- 6月19日 ハイロクスクス育仔中
- 〃 アカテタマリン出産(2頭)
- 6月23日 ミユビナマケモノ死亡
- 6月24日 ロバ(オス)死亡
- 6月27日 マガモ自然ふ化(6羽)
- 6月28日 アカテタマリン出産(2頭)
- 6月30日 市原市社会福祉協議会「声の新聞」のため取材
- 7月1日 博物館実習生(東京農大生)受け入れ(～10日)
- 7月4日 ロバ出産
- 〃 マガモ換羽終了(エクリプス羽)
- 7月5日 アウトドア自然観察教室(講師 牧林功)
- 7月6日 ミニブタ(2頭)市川市動植物園へ寄贈
- 〃 ミユビナマケモノ科学館2階で展示開始
- 〃 飼育研究会「ミユビナマケモノの飼育」
- 7月9日 モウコノウマ、マーコール割蹄
- 7月10日 ウスユキバトふ化
- 7月12日 第3回サマースクール受付(小学1～6年計127名)
- 7月13日 ワタボウシバンシェ死亡
- 7月14日 特別展「二次開園の仲間たち」開催



展示風景

- 7月16日 トナカイの袋角がはげてくる
- 7月19日 チンチラ出産(2頭)
- 7月20日 ウスユキバト1羽巣立ち
- 7月21日 フンボルトペンギン換羽
- 7月22日 博物館実習生(千葉大生5名)受け入れ(～26日)
- 7月28日 第3回サマースクール開催(～31日)
- 〃 ヤク出産
- 7月29日 スレンダーロリス(2頭)、スリランカ国立動物園より受贈

飼育よもやま話

イワドリの繁殖

動物科学館1階のバードホールにおいて、イワドリが繁殖するまでには、様々なエピソードがあるので紹介しましょう。

まず、巣造りでは、昨年の年末より母鳥が巣材を運び始めましたが、一ヶ月たっても巣ができないため、新しい巣台を近くに設置したり、巣の原型を造ったりしましたが効果がなく、田んぼの土を用意した結果、田んぼの土を次々運び、30日間で、簡単に巣を造り上げてしまいました。

巣が完成した直後の2月22・23日に計2個の卵を産み始めました。この時より我々の心配事は、巣の位置が観覧通路の真上なので、最後まできちんと温めてくれるのかということでした。母鳥は我関せずといったところできちんと温めていました。

交尾を確認していないので、たぶんふ化しないだろうと思っていましたが、一応、ヒナにどんなエサをやったらいかが調べはじめました。外国での繁殖記録によるとトカゲを食べることがわかりましたが、時期が悪く捕獲することができず、あちこちのペットショップに電話をし、トカゲを持っているところをさがしていた最中に3月22・23日にふ化し、大騒ぎをしその日



のうちに、たくさんのトカゲを購入しました。

しかし、量や与え方がわからず、とりあえず、ブツ切りにして与えましたが全く関心を示さず、やけになって生きたまま与えるとすぐに母鳥がぐわえていき、木の枝などにたたきつけ殺した後、丸ごとヒナに与えました。

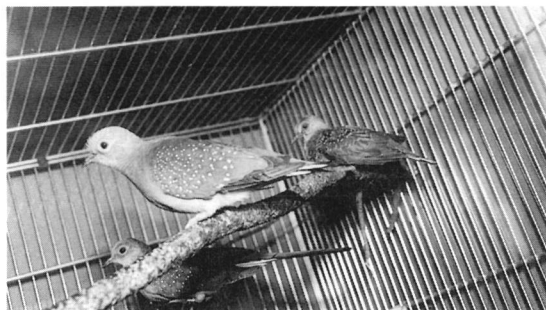
その後、巣立ち真近になると、ヒナが池に落ちておぼれないように、池の水を抜きました。そして、5月4日に巣立ちした後は、きちんとエサを食べるか、また、お客がちょっかいを出さないかなど心配で観察を兼ねて1日中ヒナを監視しました。このように、イワドリの繁殖には大変手間がかかっているのです。

(伴野修一)

ウスユキバトの御夫婦

こども動物園の飼育センターに、ウスユキバトという全長20cmほどの小型のハトがひとつがいます。オーストラリアがふるさとのこのハトは、Diamond Doveと呼ばれていますが、灰色の翼に散りばめられたいくつもの小さな白斑は、たしかに宝石を思わせます。

そんなかわいらしいこのご夫婦に、7月3日、二世が誕生しました。独特なオスのディスプレイと、子育ての様子を少しご紹介しましょう。「おじぎ」ディスプレイともいわれるこの動作、メスに近づいては深々とおじぎをし、同時に尾羽根をパッとひろげます。おじぎのたびに、ポーポーと独特の低く響く声でさえずります。メスの方は、チョコチョコとあたりを走りまわっているだけなので、端からみるとどうもオスの一人相撲といったところですが、どっこい、思いはすぐ通じてめでたしめでたし、といくのが常です。無事結ばれ、卵を産み、抱卵すること2週間で二世が誕生します。ハトの仲間は、抱卵や育雛を夫婦協同行ないますが、「ビジョンミルク」という独特の育雛用のエサをオスもメスも体内でつくることができるという特技をもっています。ヒナがフィーフィーと鳴けば、オスでも口を大きくあけて中から「ミルク」をヒナに



吸いとらせます。巣立ちのあとは、両親の食事中に横に寄りそって、翼をふるわせてエサのおねだりをします。このニュースが届くころは、きっともうりっぱな大人になっているでしょう。

ところで、この夫婦の子育てで気がかりなことがありました。メスの選んだ巣のことです。それは、何とプラスチック製で、直径5cm、深さ3cmほどの小さなエサ入れでした。ワラで編んだ巣皿は気に入らなかったようです。メスが選んだとあっては、オスは従うしかありません。せっせと巣材を運び、メスと交代で卵も抱きました。オスがいかに窮屈そうにこの小さな容器に身を沈めているのを見るたびに、いったいこの容器のどんところが彼女の気を引いたのか、その秘密を探りたいとひそかに思っているところです。

(並木美砂子)

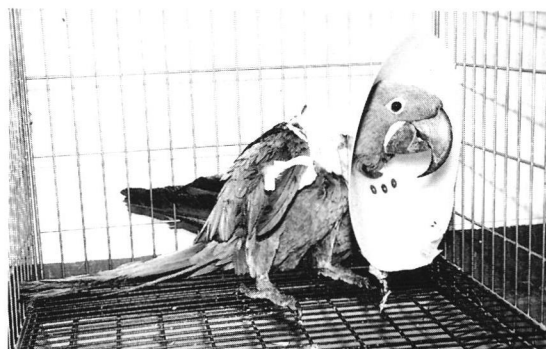
健康管理センターから

飛べないインコ

子ども動物園に入ってすぐの「インコとゾウガメの森」のところで先日、あの青い鳥は1羽死んでしまったのですか、とたずねられました。いろんな色のインコが2羽ずついる中で、他の鳥よりちょっと大きくて濃い紺色（すみれ色）をしたスマレコンゴウインコは1羽しかいません。もう1羽は悪いクセがもとで入院中だったのです。

「この鳥たちどうして飛んで行っちゃわないの？」とよく聞かれますが、これは実は片方の翼の羽根が切っているのです。片方だけ短いとバランスがとれなくて飛べないのです。羽根を切るというかわいそうなようですが、本人たちはごらんの通り、慣れてしまえばどうということはありません。どこの動物園でもかごのない所で飼っている鳥は羽根を切ってあります。

ところでこのスマレちゃんですが、他のインコは誰もそんなことをしないのに、羽根を切った後の傷口を自分でかじってしまうのです。あの大きくて硬いくちばしです。人間が咬まれたら大ケガです。痛いだろうと思うのですが、気になるのでしょうか。少しずつ、



首輪をつけたインコ

少しずつかじってしまい、時々血も出ます。私達が、日に焼けて皮がむけてくると、ちょっと痛くてもついついむきたくってしまうのと同じなのでしょうか。

とうとう6月の末に入院となって、スカートを逆さにしたような形の大きな首輪をつけられてしまいました。傷は縫い合わされてしまいました。完全になおってしまえばからだの他の場所と同じでもうかじらなくなります。それまで不自由なのはがまんです。

羽根を切ってから2年もたっていて、その間にじわじわできた傷だったので、なおるのにも時間がかかりました。でもやっとなおり、また久しぶりに「インコとゾウガメの森」の住人が全員そろいました。

（米田久美子）

動物図書館

動物の本がいっぱい

動物公園に図書室があるのをご存知ですか。動物についての本だけをあつめた小さい図書館です。白い建物の動物科学館2階に閲覧室、書庫・事務室があります。単行本はホ乳類、鳥類を中心に約2000冊とりそろえてあります。近年出版されたホ乳類、鳥類についての本はほとんどあつめられています。それらについて調べるには絶好の図書室です。動物や動物園の雑誌、一般科学雑誌もとりそろえてあります。

図書閲覧室には、子ども向けの動物の本、約700冊と雑誌がならべられています。25席のいすが用意されており、だれでも自由に利用できます。

子ども向けの動物の本以外の本は、書庫にあります。書庫には入れませんが、閲覧室にある図



利用者の多い閲覧室

書カードから希望の本を探していただき、閲覧希望カ

ードに記入して図書係員に提出していただくと、書庫からだしてくれます。その他探したい動物の本があれば、係員が探します。

閲覧室には毎月行事に関する図書を集めた特集コーナーを設けています。毎月ズーライブラリーニュースを発行し、新着図書などお知らせしています。千葉市立と県立図書館に配布しています。

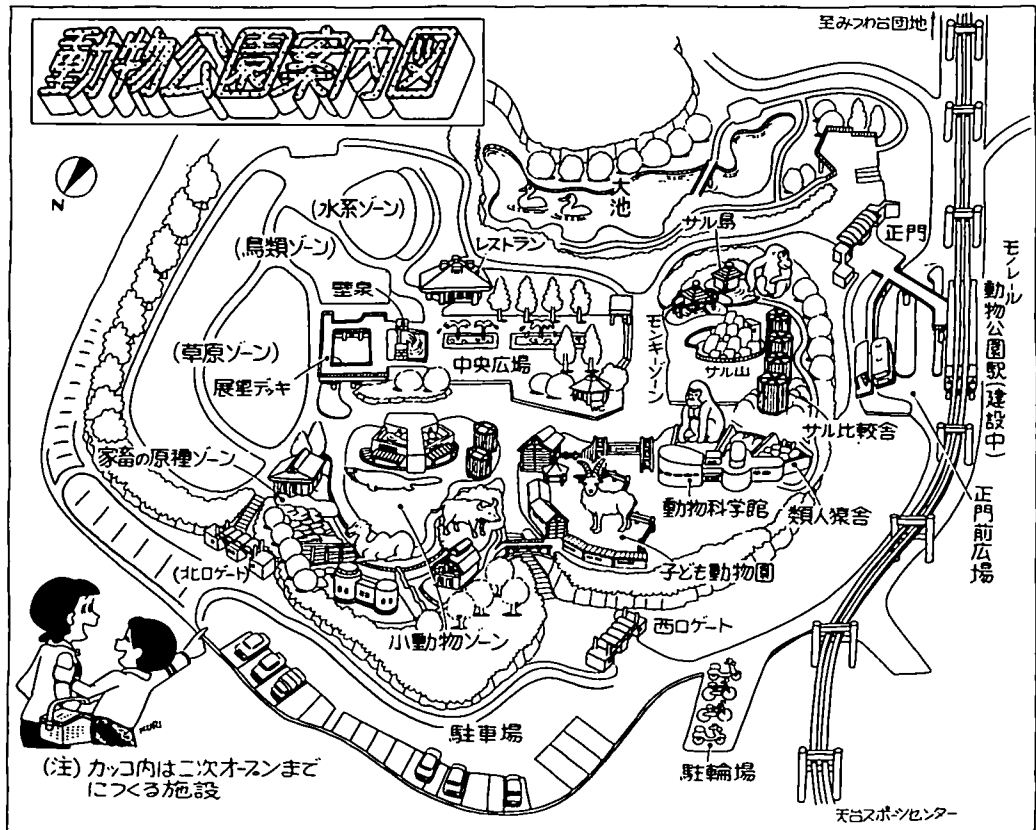
開室時間は午前10時～午後4時、休園日は休み、貸し出し、コピーサービスはやっておりません。詳しくは動物公園図書室までお問い合わせ下さい。



3万冊収容可能な書庫

昭和62年度（後期）行事予定

行 事 名	実施時期	内 容
動物ねんど教室	10月4日	ねんどで動物を作ります。（作品は11月1日まで科学館で展示）
クイズラリー	11月1日	園内10ヶ所にあるクイズにチャレンジ！
動物たちのクリスマス	12月上旬	クリスマスにちなんでトナカイのクイズなどを行ないます。
新春特別展	1月5日 ～31日	干支にちなんだ動物をパネル等で紹介します。
新春園内横断クイズ	1月上旬	動物を観察しながらクイズに答えます。
動物公園 バードウォッチング	2月上旬	動物公園の野鳥や飼育鳥類の観察を行います。
動物紙工作教室	3月上旬	紙工作で動物をつくります。



- ▶開園時間 午前9：30～午後4：30（入園時間は午後4：00まで）
- ▶入園料 大人（高校生以上）500円 小人（小・中学生）100円 小学生未満無料
（団体） 有料人員30名以上は2割引き
入園料が免除になる方 （窓口で手帳を提示して下さい）
千葉市在住の60歳以上の方で千葉市発行の身分証を持参の方
身体障害者手帳を持参の方及び一種の方の介添人1名
療育手帳及びこれに類する手帳持参の方とその介添人1名
- ▶休園日 月曜日（月曜が休日のときは翌日） 年末年始12月29日～1月3日
- ▶駐車料金 普通車500円 大型車2,000円（マイクロバス含む）